

【事業計画】

2023年・2024年度 学友会事業計画

〔総括〕

当該年度に新たな事業はないが、数年後の「学友会創設100周年」を迎えるにあたり、各支部での機運を盛り上げると共に、継続して事業の発展及び会員相互の親睦、組織結束力の強化に努めたい。

また、母校の発展のためにできる限りの支援を行いたい。

(1) 母校への後援活動について

これまで通りすべての行事に積極的に参加し、学園行事に協力する。

(2) 支部活動の支援と連携について

例年通り定期的な支部総会開催を要請すると共に、支部総会の出席に努めたい。

(3) 学友会名簿の発行について

例年通り、2年ごとの発行を目指す。

以下、常置委員会が行う事業について総括する。

〔委員会計画〕

(1) 庶務委員会

理事会・委員会等会議の開催、学友だよりの発送、ホームページの定期的な更新および内容の充実を図り会員相互の連携を強化する。

名簿委員会と連携して会員情報の管理、支部の役員名簿、卒業生就職先名簿など各種文書の取扱業務を行う。また、支部総会および同窓会開催時には、要望に応じて会員宛名シールの提供を行い支部・同窓会活動を積極的に支援する。

(2) 編集委員会

「学友だより」を年4回発行する。内容は例年通りとする。専門学校卒業、短期大学卒業、大学卒業、それぞれの会員に有用な情報を新たに検討し、掲載する。新型コロナウイルス感染症の制限解除により支部総会や同窓会、イベントなど開催したのについて積極的に発信していきたい。

過去2年の「学友だより」と同様に、写真等を活用して引き続き視覚的な紙面づくりを心掛けたい。掲載する会員情報に留意するだけでなく、会員外の個人情報についても引き続き十分留意する。

各号のページ数は12から16頁を目安とする。

(3) 企画委員会

1) 就職懇談会の開催

就職懇談会を例年通り、企画委員(西田、辻居)を中心に学内理事の協力を得て最終学年の生徒を対象に開催する。臨床実習や就職活動に役立つように、また卒業(国家試験)までの時間を有効に過ごせるような動機づけることを目的にする。

2) 大瑠璃祭における[相談コーナー]の開設

大瑠璃祭の相談コーナーを開設。3学年を中心に学生の相談に応じる。Web開催を通じて地方の相談員を増やす方向で検討する。

(4) 名簿委員会

令和5年度は名簿の発行を行わないため、新入会員の登録ならびに現会員登録情報の修正に対応する。令和6年度に会員名簿2024年版の発行を行うかどうか、理事会にて検討する。

これまでの収入状況について

2012年版: 広告収入 1,370,000円(32社) 頒布収入 656,000円(328冊)

2014年版: 広告収入 1,090,000円(23社) 頒布収入 688,000円(344冊)

2016年版: 広告収入 680,000円(13社) 頒布収入 464,000円(232冊)

2018年版: 広告収入 750,000円(13社) 頒布収入 380,000円(190冊)

2020年版: 広告収入 720,000円(12社) 頒布収入 376,000円(188冊)

2022年版:広告収入 670,000円(12社)頒布収入 314,000円(157冊)
であった。

広告収入・頒布収入ともに減少傾向が見られるが、卒業生の連絡先の把握は学友会事業の根幹をなすものであり、正確性の維持が重要と考える。

(5)表彰委員会

2025年学友会総会においての、名誉会員の推戴、表彰規定にもとづく表彰者、並びに感謝状贈呈者の選考を行う。

(6)財務委員会

1)一般会計

収入について、安定的に新入会員を確保できているため、終身会費からの補助金を同額とし、総額10,543,677円(前期9,304,746円)を計上した。支出について、学友だより発行費を前期決算額をふまえて60万円増額した。旅費交通費は新型コロナ禍の終息で対面の支部総会、理事会等が実施できることを期待して50万円増額とした。その他は前期とほぼ同額とした。全体として、総額10,550,000円(前期9,250,000円)を計上した。

2)終身会費

前期と同様に、収入分と同額を補助金として一般会計に繰り入れることとした。国債利息と合わせて、今期末の積立額は4,461万円(前期末4,381万円)となる予定である。

3)21世紀創生基金

今期は支出の予定はない。随時 寄附の受付を行い、基金として適切な運用・管理を行う。

以上

*通巻248 2023年7月10日発行(2023-No.3)より